ゼ、ジドン」福州府ヨリ岩倉右大臣ヘ支那形勢并北京進擊畫策上申十月廿一日

本月七日ニ閣下ニ書ヲ送リシ後北京ヨリ受取シ書翰ニ大久保氏ハ本月廿五日ノ要需ニ決答アランヿヲ求メタル由ヲ記シ又支那官吏并ニ當地人民ト支那北部ノ人民トノ意ヲ滿タシムル為メ支那議事堂ノ處置一変シタル由ヲ記シタリ蓋シ右處置ノ一変シタルハ眞ニ評判ノ如クナルヤ否ヤ余之ヲ知ル能ハスト雖モ總理衙門ニ於テ日本ニ台湾出兵ノ費ヲ断然償ハサル

外務省

ヲ決シ支那ノ交戦党即チ報国党ハ方今威権ヲ
振レルニ相違ナシト云フ
北京政府ノ處置因循ナルカ如ク見エルニ因リ
沿岸諸州ノ人民之レカ為メ大ニ動揺シ余カ思
ヘル所ニテハ戦争ノ時避リ可カラサルニ至レ
ル大変革ヲ防キ或ハ之ヲ遷延スル為メ若シ日
本ニ償ヲ映ル件ハ當時ノ清朝ハ恐クハ亡滅ス
ルニ至ルヘシ又評判ニ北京政府ノ因循セルハ
殊更時日ヲ遷延スル為メナリト云フ
抑支那ニ於テ其首都ヲ襲ハル、時ハ則チ全国
ノ要處ヲ衝カル、ニ在レハ甚タ之ヲ虞慮シタ
リト雖モ方今ハ冬ニ間近クシテ最早其恐レア
ルヿヨリ今ヨリ六週内ニハ北支那ノ地方ハ全
ク氷ノ為メ鎖サレ翌年四月迄ハ通路開カス又
恐ラクハ翌年六七月頃迄ニ北京ヲ襲フ能ハサ
ルヘシ敵ニ其時ニ至ル迄ノ内ニ防守ノ備ヲ為
シ而シテ其防戦ノ備ハ外國人ヨリ之ヲ見ル時
ハ不充分ノ者ト雖モ攻撃ヲ為スモノ、為メニ
ハ甚タ恐ルヘク又支那ノ防戦ヲ為スカハ頗ル
大ニシテ日ニ其実力ヲ益シ数月ヲ出スシテ支

外務省外交史料館
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

那政府哈、其兵力ヲ整頓シ北京ヨリ之ヲ統轄スル
ヲ得ヘシ蓋シ和戰ノ一事ハ支那ニ於テモ列シ
キ多論ヲ生シタレトモ數週間ニ其論決定シ支那
ノ交戰党即チ報國党ノ勢極メテ盛ンニシテ敢
テ之ニ抗スルモノアラサレハ大ニ支那ノ紀綱
ヲ一変スヘシ

貴國雇入ノ一外國人北京ヲ攻撃スル為メ北支
那ニ於ケル左ノ二ヶ所中ノ一ニ大軍ヲ上陸セ
シハルノ利ヲ貴政府ニ進メタル由也

第一　北河ヨリ北ニ方リ長城ノ海岸ニ接ス
ル所

第二　北河ヨリ南四五十里ノ處

右ニ付キ以テ之ヲ觀ル時ハ其外國人ハ北河ノ
傍ニ在ル太沽及ヒコクノ砦營ハ堅固ニメ之ヲ
攻取リ難シト思フナルヘシ

余ハ今現在ノ景況ニ於テハ此ノ如キ出兵ハ竟
ニ其功ヲ奏スルヲ得サルヘシト思ヘル道理ヲ
腹臓ナク閣下ニ陳ヘントス

抑閣下ノ記憶シ玉フ如ク去ル五六月ノ頃ニ余
シ閣下ノ要メニ應シ畠山氏ノ紹介ヲ以テ交戰

蒼地事務局

ノ騎歩兵騎兵砲兵五千人ヲ運送スヘキ船ノ噸
数ヲ辨明シ又當時日本ニ在ル蒸氣商船ノ大サ
ハ其中数五百噸ニ過サルカ故ニ兵士騎馬大砲
輜重糧料薪材帳幕軍用品砲車六ヶ月分ノ食料
ヲ逆送シ石炭ヲ備ヘ病院ノ器具ヲ設ケ郵便ノ
法ヲ整フル等ノ諸事ヲ為スニハ右蒸氣船始ン
ト七十艘ヲ要スヘキ旨ヲ辯シ(然ル時ハ日本ノ
貿易全ク止ハヘシ)又大小ノ蒸氣兵船僅カニ十
隻有シノミハ十二隻ニテハ海上ニ於テ運送船ヲ
警衛シ敵國ノ海岸ニ於テ我兵ヲ保護シ敵ノ砲
臺ヲ打縮メ兵士輜重ノ上陸ヲ護衛シ陸軍ノ
應援ヲ為スニハ足ラサル旨ヲ辯セリ然レトモ
迫頃ニエーヨルク等ノ如キ大蒸氣船ヲ賣収シ
タレハ貴國ノ運送カ恐クハ以前ニ二倍シ一週
間ノ航海ノ為メ兵士一万人ヲ運送スルニ足ル
ヘシ扨又戦争ノ時支那ノ領地内ニ一万ノ兵ヲ
上陸スルヲ得且ツ貴國ノ軍艦支那軍艦ノ賣國
海岸ヲ襲撃スルヲ防キ尚運送船ヲ警衛シ之ニ
加フルニ兵士ノ上陸ヲ保護スルノ力アリトセ
ハ一万人ノ兵ヲ上陸シタルヨリ十日ヲ出スシ

テ食料ヲ備ヘ軍用品ヲ蓄ヘテ陣營ヲ設クルヿヲ得ヘク更ニ三週ノ後ニ至リ貴國ノ運送船軍艦ノ警衛ヲ得テ更ニ日本ニ還リ又尚一万人ヲ載セテ支那ニ赴クヘシ而レテ北支那ニ於テハ韃靼ノ騎兵多人數ヲ備ヘ日本兵ノ憂タルヘキヲ故ニ貴國二万人ノ兵ヲ中騎兵二千五百人ヲ備ヘ且ツ野戰砲百門攻砦砲二門ヲ備ヘ花ニ架橋ノ器具ヲ備フヘシ蓋シ前文ニ記セル最近ノ路程ヲ以テ度ルモ上陸場ヨリ北京ニ至ルニテ其里數百五十里許ニシテ其上陸場ノ防禦ノ備ヲ為ス且ツ後ニ太沽及ヒ其久ノ平太砦ヲ始リテ長キ線路ノ音信ヲ通スル備ヲ為シタル上李鴻章ノ大軍ト戰ヒシ後ハ北京ニ到ルヘキ日本ノ兵數過多ナルヲ得サルヘク之ニ加フルニ十一月ニハ天氣甚タ変リ易ク十二月ニ至ツテハ海岸ニ近ツクヘカラスシテ翌年四月迄ハ日本ト往返ハル能ハサレハ其間貴國ノ兵僅ニ其携来リシ軍用品ノミニ依頼セサルヲ得ス

北河及ヒ運河ノ通路ヲ專ラニスルニハ先ツ太沽及ヒコクノ砦營ヲ攻取テザルヘカラス然ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ方今ハ碎船機ヲ以テ河中ニ備ヘタレヲ右ノ
砦營ヲ攻ムルヿ極メテ難ヲ而メ貴國ノ兵北海
ノ通路ヲ閉ヲヿヲ得ハ北京ヨリ僅カ十二里ノ
所ニテ通船ノ便ヲ得ヘシト雖モ若シ北河ノ南
北ニ上陸スル時ハ道路甚タ悪シク陸地運送ノ
便ヲ得ルヿ極メテ難ク加之支那人ハ車馬騾馬
牛及ヒ其他ノ運送ノ器具遠ク内地ニ輸シ日本
兵ハ其携来リシ運送器具ノ外敢テ他ニ用フヘ
キモノ無カルヘシ
千八百六十年ニ英佛ノ兵強大ノ軍艦ヲ助ヲ得
テ太沽ノ砦營ヲ攻取リ北河及ヒ運河ノ線路ヲ
過リテ北京ニ進メリ然レ𪜈太沽ノ砦營ハ方今
其堅固ナルヿ以前ノ比ニアラス後面ニ於テ之
ヲ攻取ル能ハサルヘシ又千八百六十年ニ右砦
營ヲ攻取リシハ頗ル難ヲシテ欧州ノ兵士二万人
余ト砲船数隻トヲ擁セシカ千八百七十五年ニ
右砦營ヲ攻取ルハ実ニ容易ナラサル所業ナル
ヘシ然レトモ貴國ノ兵右砦營ヲ攻取ルニ非レ
ハ運送ノ便ナキニ因リ自由ニ進攻スルヿ難カ
ルヘク又李鴻章ノ兵ハ中央ニ在リテ堅固ナル

蕃地事務局

地ニヶ所ニ據リタレハ内國ノ線路ニ其兵ヲ亟カニ動ストキハ貴國兵ノ上陸ヲ妨ケ其後貴國兵ヲ長キ進行ノ間然レクヽ之ヲ攻撃スルヲ得ヘシ故ニ曰ク此ノ如キ出兵ニハ二万人ニテハ不足ニシテ五万人ヲ要スヘシ

支那ノ無二ノ要処ハ北京ニアレハ其他ノ地ヲ攻略スル所貴國ノ為メ有益ナラサルヘシ一度北京ニ攻入シ上ハ貴國ヨリ支那ニ向ヒ隨意ノ要需ヲナスヿヲ得ヘシ又江東ハ大砲碎船機ヲ備ヘ又ニ数多ノ兵ヲ也シテ防戦ノ備ヘヲ為シ福州府モ亦碎船機砲台砲船等ヲ備ヘタレハ假令貴國ノ軍艦其河中ニ入ルヿ之ヲ攻撃スルヿ難シ又開港場ハ外國人ノ権利ニ管係アルニ因リ之ヲ中立ノ地ト為シ中立ノ法ヲ守ラサルヲ得サルヘシ蓋シ中立ノ法ハ両國相互ニシテ日本ノ開港場ニモ又其法ヲ適用スヘキヿ閣下ノ注意アルヘキ所ナリ

其他ノ襲撃ノ場所ハ運河ノ通路ヲ自由ナラシムルタメ楊子江ニ逼ルニ在リ然レ所楊子江ハ外國交易ノ往還タルニ日リ尚シ其往来ヲ妨ケ

或ハ其河道ヲ占據シテ外國交易ニ害ヲ加フル
ヿアル時ハ日本ト外國トノ紛紜ヲ生セレムヘ
シ而シテ又支那ノ海岸ニ於テモ或ハ北河及ヒ楊
子江ニ於テモ外國人ノ權利ヲシテ支那所有ノ
權ト分離セシムルヲ得ヘキヤ否ヤ知ルヘカラ
スシテ此一事ハ之ヲ決着スル甚タ難シ其レヨ
リシテ日本ト外國トノ紛紜斷エサルニ至ルヘ
シ

閣下及ヒ閣下ノ同僚ハ北京進擊ノ策并ニ其他
數多ノ策畧ヲ知玉フヘキカ故ニ余レ又敢テ其
策畧ヲ贅言スルヲ欲セス然レ𪜈閣下ハ屢余ニ
腹臓ナク我説ヲ陳フヘキ旨ヲ求メ玉ヒタレハ
閣下ノ為メ余カ地勢ヲ知ル所ノ難事ヲ閣下ニ
辨明ス而シテ日本ノ支那ト和親ヲ保メレムルニ
勉励スル者ハ則チ日本ノ親友ナリ謹言

千八百七十四年十月廿一日福州府ニ於テ

ゼ、ジ、ドン

岩倉具視閣下

岩倉具視関係文書

アルフレッド「ローブル」支那攻戦覽書ニ辨解書 十月廿三日

冬間支那攻戦ノ策

第一條　交戦ノ告アル後ハ日本海軍ノ船艦ヲ尽ク長崎ニ集メ以テ舟山島ヲ攻取スヘシ乃チ軍艦ヲ以テ蒸氣運送船ヲ守護シ少クモ七千ノ兵ヲ載セ舟山ヲ取テ後之ヲ守ルヘキ准備ヲ十分為サヽルヘカラス

第二條　兵隊舟山ニ入ルトキハストーンウオール号「ラム」船（甲鉄船）ト二艘ノゴンボートヲ残シ

舊地事務局

舊地事務局

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/